



～ 夢ひとすじに ～

宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

第 5 号

平成 24 年 9 月 1 日

さいたま市立宮原中学校

メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

認められる喜び

校長 山下 誠 二

猛暑と言っているほど、残暑の厳しい日々が続いていますが、例年より早い 29 日に 2 学期の始業式を元気に迎えることができ、大変うれしく思っています。保護者の皆様、地域の皆様の温かいご指導、ご支援のお陰と心より感謝申し上げます。

始業式での生徒の様子は、暑い中でも話を聞く態度は素晴らしく、良い 2 学期のスタートが切れたと思います。

さて、始業式の前日に大変うれしい連絡が入りました。地域の原田さん(女性)から学校に電話をいただき、教頭先生が対応してくれましたが、「7 月 20 日のお昼ごろ、吉野町の市場近く、道路上で、シニアカ-を押した 88 歳のおばあさんが、横断中、信号の色が変わろうとして大変危険な状況だった。そこに宮原中の女子生徒が、走行中の車を止め、おばあさんが横断し終わるのを助けてくださった。自分は何もできず、涙が出るくらい心を打たれた。地域にこのような中学生がいることを大変うれしく思う。」という電話でした。この生徒の対応は、わかっていてもなかなかできないことだと思います。「わかっていることと」「できること」につながっている、こんな生徒が宮原中にあることが大変うれしく思いました。

生徒たちは、日々成長していると思います。それは、家庭や地域でさまざまな認められながら、生き生きと活動している証だと考えます。宮原まつりへの参加や猛暑の中、熱中症予防に気を遣いながら頑張った部活動等。暑さに負けずに活動できるのは、もちろんその活動自体の楽しさがあるためですが、もう一つの要素として「認められる喜び」があります。認められるということは、人の意欲と深いかわりがあり、誰かに喜んでもらったり、感謝してもらったり、これとはとても嬉しく、もっとやりたいという意欲が出るものです。また、人知れず、ひっそりとやっけていても、それが役に立っていると信じ、自分自身が納得していれば、人に認めてもらっているのと同じ喜びが味わえると思います。この満足な気持ち、自分は意味のある存在であるという気持ちのことを「自己肯定感」と言い、「生き甲斐」や「頑張り」の基となる大切なものです。2 学期は、一人ひとりの生徒が、目標をしっかりと持って、この「自己肯定感」を大切にして、少しでも自分自身を高めるような努力をし、友達同士で互いによさを認め合ってほしいと思います。我々教師も、保護者も地域の方も、生徒一人ひとりの良さを認めながら伸ばしていくことが、今、全国的に問題となっている「いじめの撲滅」に一步、近づくのではないかと強く思う次第です。



「未来くる先生」講演会より

左から 清水市長様 齋藤支配人様 岡部さん

* 学校に電話をいただいた原田さん、ありがとうございました。もしよろしければ、校長または教頭まで再度ご連絡をいただければ幸いです。